

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 5年 2月 15日

事業所名 おうちだ

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	8	3	・定員が最大時には食事、おやつ時間は個々の間隔が狭い。 ・室内トイレの排泄交換ベッドが高さ調節できず腰痛の原因になる。	・必要な広さは満たしていますが、感染症対策も含めて、スペースを上手く使えるように工夫します。 ・トイレのスペースの関係で、設置式の交換台にしています。お子さんの体格に合わせてベッドで交換する他、他の方法(ポータブルトイレの使用)も検討します。
	2	職員の配置数は適切である	11			
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	8	3	・廊下にエアコンが無い為、夏は暑く、冬は寒い。療育室内との温度差がある。 ・エレベーターが狭い。大きなバギーは背もたれを上げて扉入り口に触れないようにしないと閉まらない。	・廊下に長く留まらないようにする他、お子さんの服装や体温に注意します。今後必要であれば、廊下の冷暖房対策も考えていきます。 ・バギーのサイズによっては狭いですが、安全に乗り降りができるように注意します。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	9	2		・評価表を配布していることを、職員にも周知します。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	9	2		・評価表を配布していることを、職員にも周知します。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	11		・公開しているか不明。	・ホームページで公開することを、職員にも周知します。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	9	2		・おうちだは今年度から開所した為、今後、外部評価も受けていきます。
適切な支援の提供	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	11			
	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	11			
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用	11			
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	9	2	・職員で共有を行い、活動プログラムのねらいや目的を話し合っている。 ・1年を通して活動内容を決めてい	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	11			
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	10	1		・平日と休校日の1日の過ごし方は異なります。平日、休日に関わらず、課題の設定や過ごし方の工夫をお子さんに合わせて行っています。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	11			
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	11			
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	11		・翌日に実施。振り返りの中で、もっと意見が言い合えると良い。	・職員間で意見を出し合い、細かいことも共有できるように努めます。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	11			
18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断して	11				
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせて支援を行っている	10	1		・ガイドラインについての研修を実施しましたが、普段からガイドラインを意識した支援ができるように努めます。	
20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	11				
21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	11				
22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整え	11				

関係機関や保護者との連携	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	11		・今年度就学のお子さんについて、相談支援専門員も含めた情報共有を行った。他に新規で利用開始した方も、在籍している学校との情報共有を	
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	11			・今年度末で移行するお子さんに対して行います。その他、途中で利用終了するお子さんに対しても、支援内容の情報提供を行っています。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	10	1		・児童発達支援センターと情報交換する場を設けています。また、発達障害者支援センターが開催する研修も受けています。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	7	4		・イベントの中で一緒に参加していただく程度で、機会をつくることができていません。感染症に注意しながら検討していきます。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	9	2		・管理者や相談支援専門員が参加しています。情報共有を行っています。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	11			
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	8	3		・必要な情報や参加の機会をお知らせできるようにします。
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	11			
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	9	2		・個別に面談でお話させていただく他、日頃から聞き取りや相談しやすい関係づくりを行っています
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	8	3		・今年度は合同茶話会をご案内しています。次年度もそのような機会を計画します。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	11			
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	11			
	35	個人情報に十分注意している	11			
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	11			
非常時等の対応	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	10	1		・地域で開催されたイベントへの参加や、3月にはマルシェも計画しています。
	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	10	1		・マニュアルについて、契約説明会や年度始めにも職員や家族に周知していきます。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	11			
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	11			
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載して	11			
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	11			
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	9	2	・ヒヤリハットとして報告していない事例もあるように感じる。 ・報告は記録に残し、過去のを振り返ることができる	・ヒヤリハットの報告件数は事故報告に比べて少ない為、小さなことでも共有し、改善していけるよう努めます。